

授業科目名	【G】	民事手続法(倒産法)Ⅱ	区分 選択	開講年次	【G】3	単位数	【G】2	
	【H】	民事手続法(倒産法)Ⅱ			【H】3		【H】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	倒産実体法の概観				担当者	伊禮 誠汰		
授業概要	【概要】	本講義では、倒産法の基本的な知識を習得することを目的とする。倒産法は「破産法」、「民事再生法」、「会社更生法」、および「会社法の特別清算の規定」などから構成される講学上の概念である。倒産法Ⅱでは、いわゆる倒産実体法を中心に学習する。						
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・破産法の重要概念について平易な言葉で説明できる。</li> <li>・平時の実体法と倒産時の実体法とを比較検討できる。</li> </ul>						
履修条件	民事手続法(倒産法)Ⅰの単位を修得していること(民事手続法(倒産法)Ⅱのみの受講は認めない)。							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【-】	グループワーク	【-】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	民法等の実体法科目の事前受講や、同時受講が理解を深めるために望ましい。							
教科書	特定の教科書は指定しない。必要に応じて講義内でレジュメや資料を配布する。							
参考書	①野村剛司＝森智幸『倒産法講義』(日本加除出版・2022年) ②杉本和士＝北島典子＝高井章光『倒産法』(有斐閣・2024年) ③松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第6版〕』(有斐閣・2021年)							
評価方法	到達度確認テスト(計80%)と授業への参加態度(20%)で評価する。							
フィードバック方法	到達度確認テスト毎に答え合わせと解説を行う。							
評価基準	倒産実体法の意義や重要概念を適切に説明できる者にはSまたはA、理解できていると認められる者にはB、最低限の知識を習得している者にはC、最低限の知識の習得が認められない者をD、それ以下をEとする。授業参加回数が著しく少ないなど評価不能の場合はFとする。							

授業科目名	【G】	民事手続法（倒産法）Ⅱ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	民事手続法（倒産法）Ⅱ	選 択		【H】3		【H】2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス、倒産法Ⅰの振り返り						
	予習:	倒産法Ⅰの総復習	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
2	別除権①—別除権総論、抵当権						
	予習:	民法の教科書の担保物権のパートを復習する(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
3	別除権②—根抵当権、その他の典型担保						
	予習:	参考書①の該当部分の通読(128～145頁)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
4	別除権③—非典型担保(その1)						
	予習:	民法の教科書の非担保物権のパートを復習する(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
5	別除権④—非典型担保(その2)						
	予習:	民法の教科書の非担保物権のパートを復習する(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
6	否認権①—総論						
	予習:	参考書①の該当部分の通読(169～184頁)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
7	否認権②—詐害行為否認						
	予習:	参考書①の該当部分の通読(169～184頁)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
8	到達度確認テスト						
	予習:	ノートの読み返し(120分)	復習:	テスト問題の解きなおしと疑問点の解消(120分)			
9	否認権③—偏頗行為否認						
	予習:	参考書①の該当部分の通読(185～192頁)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
10	否認権④—特別類型の否認、否認権の効果						
	予習:	参考書①の該当部分の通読(193～200頁)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
11	破産者をめぐる契約関係の処理①—総論、売買契約						
	予習:	民法の教科書の売買契約のパートを復習する(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
12	破産者をめぐる契約関係の処理②—賃貸借契約						
	予習:	民法の教科書の賃貸借契約のパートを復習する(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
13	破産者をめぐる契約関係の処理③—雇用契約、請負契約						
	予習:	民法の教科書の雇用契約・請負契約のパートを復習する(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
14	破産者をめぐる契約関係の処理⑤—その他の契約						
	予習:	参考書①の該当部分の通読(125～127頁)と用語の整理(120分)	復習:	ノートの読み返しと疑問点の解消(120分)			
15	まとめ、到達度確認テスト						
	予習:	ノートの読み返し(120分)	復習:	テスト問題の解きなおしと疑問点の解消(120分)			
その他	1. 六法必携。 2. 授業の進行度合いによって、講義計画が変更することがある。 3. 講義中のスマートフォンの使用を禁ずる。 4. 判例・通説を中心に説明するが、それでもかなりの情報量になる。授業終了後の十分な復習(最低でも120分程度)が重要になる。						